

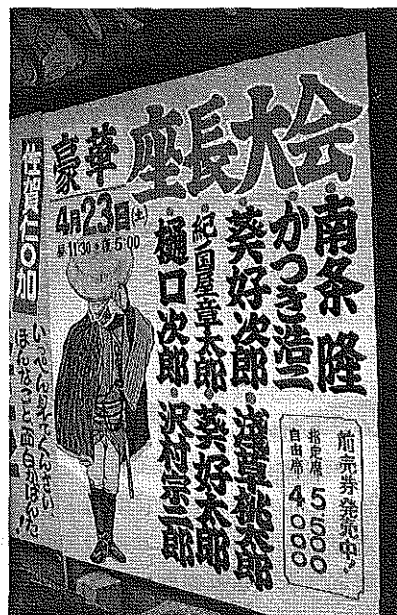
# よか ネット

YOKANET

NO. 9 1994. 5

(株)九州地域計画研究所

福岡の全国区級文化遺産嘉穂劇場で、4月23日に「全国座長大会」がありました。日頃親しくしていただいている方々と私共所員が観劇に行き、筑豊の“ふるさと文化”と“おばちゃんパワー”の度迫力を感じました。(本文15頁)



## も く じ

### 〈NETWORK・ネットワーク〉

2. やぶにらみ九州論5 これからの学研都市は地域の視点で ― 知的装備率を高めるための地域戦略 ―
6. アジアの明日を考える「アジアス九州」(九州北部学術研究都市整備構想)
8. 広い住宅安く借りたい だけど家主も得したい～動き始める特定優良賃貸住宅

### 〈見・聞・食〉

11. 海を渡った「うらしま太郎」
12. 地域ゼミ再開「お年寄りだって天神が楽しい」
13. あなたもいかが。巨神タイタン
14. 食場日誌

### 〈近 況〉

15. あぐらをかいてビール片手に芝居を観る 嘉穂劇場・座長大会
16. フレッシュマン紹介
18. 近況報告

### 〈本・BOOKS〉

19. 「現代アメリカの環境主義」 R.E.ダンラップ/A.G.マーティン編

## これからの学研都市は地域の視点で

### — 知的装備率を高めるための地域戦略 —

先頃、アジアス九州交流会（4頁参照）で「九州北部学研都市はなぜ分散させるのか」とか、「筑波のように集中しないと効率が悪くて何もできないのではないか」などといった意見が出た。これは、せっかく学術施設に投資するのなら集中しないと効果が少なく、九州の学術基盤強化にならないのではないかという意見である。

学研都市ということになると、必ず筑波研究学園都市が引き合いに出されるので、関西文化・学術研究都市（以下京阪奈という）とともに整理をしたい。

#### ■学研都市のねらい

筑波は東京にある国立研究機関が狭隘となり、拡充ができなくなっていたので、首都圏の中で集約移転地を探していて、3箇所の候補地の中から筑波に決まったものである。決して茨城県や筑波周辺の地域づくりや、知的インフラの充実などということを考えて始まったものではない。したがって、研究用地開発についても、国立研究機関のための計画であった。現在筑波周辺に極めて多くの民間の研究機関が立地しているが、当初はこれらのことは全く予測されていなかった。

京阪奈の場合は筑波とかなり違って、地域戦略の色合いが強くなっている。つまり目的として「関西の地盤沈下を防ぐ。文化・学術研究機関などを中心とした都市建設を進めて、民間企業を誘致し将来に

向けて浮揚をはかろう」というコンセプトであった。また、研究内容についても、東京と同じものでなく、関西の特色ある研究を進めて特色を出そうという方向づけがなされた。これらの方向づけがなされたのも、筑波が予想外に「地域づくり効果」を発揮していたことから学んだという面もある。

#### ■国策の受け皿か、地域づくり戦略か

筑波は国策の受け皿となったが、当初全く予想もしなかったほど大きい波及効果を地元にもたらした。また、この頃から文化や研究が、地域活性化に大きなインパクトをもたらすことがわかってきた。今では、昔あれほど言われた「工場誘致」というかけ声より「研究機関誘致」の方が評価が高いぐらいである。

これらの動きを踏まえて、京阪奈の方は地域づくり戦略として発想されており、ねらいとしても、筑波では波及効果として現れた、民間の研究機関立地を主目標にかかげることとなった。もちろん国策的な研究機関誘致は熱心に進められたが、それは国策の受け皿としてではなく、地域の研究機能向上による活性化をねらったものである。

この京阪奈の考え方も、筑波学研都市が地域に対して大きな波及効果を持ったことから学んだものである（もちろん諸外国のサイエンスシティからも学んでいる）。もし仮に地域づくりに対する効果が全く期待されないならば、迷惑施設的な性格（バイオテクノロジーや放射線をとまなう研究機関では、常に

住民とのコンセンサスが必要になっている)を持つのみとなりやすい。そうでなかったため、関西では各府県間でプロジェクトの取り合いになっていった。その結果、「近畿リサーチコンプレックス」として全体が位置づけられ、京阪奈(京都府・大阪府・奈良県の接点)以外でも兵庫県・滋賀県・和歌山県などが類似のプロジェクトを推進することになった。

つまり、関西での学研都市プロジェクトは決して集中しているわけでないのである。

### ■筑波は集中、九州北部は分散といえるか

九州北部はなぜ分散配置の計画にしたのかといわれるが、果たしてどうであろうか。

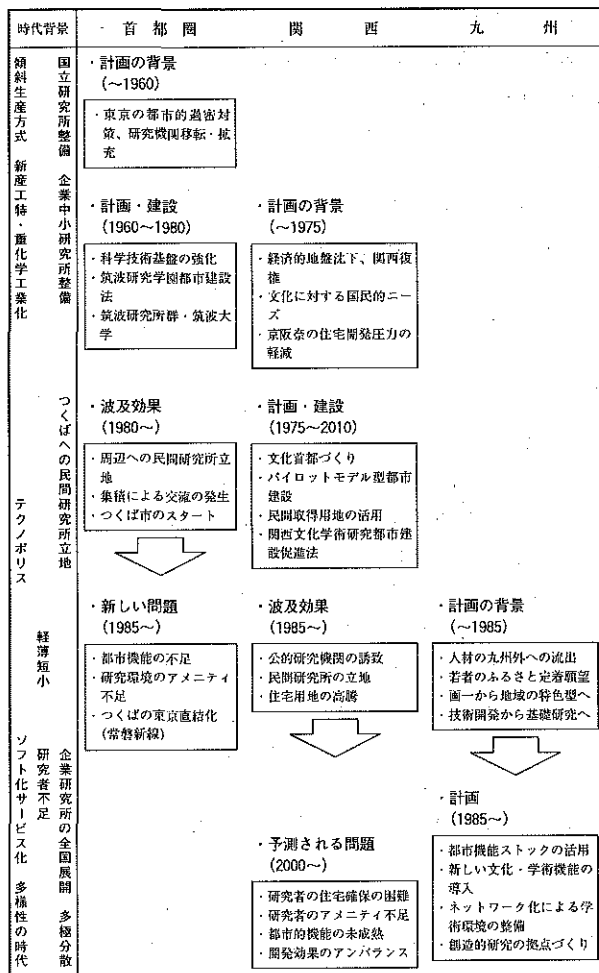
筑波は、1か所に研究機関が集約されており、京阪奈はクラスター型(ぶどうの房状)に離れているように見られているが、そのように単純に見ると必ずしも正確ではない。筑波は東京の山手線の範囲ほどの拡がりがあり、少し離れた研究機関を移動すると、1時間ぐらいかかる。京阪奈の場合は拡がり、筑波とそれほど変わらないが、交通インフラが未整備であるのでさらに不便でもある。

九州北部学研都市ゾーン(7拠点)の場合、距離は4倍くらいとなっているが、時間距離は2倍ぐらいにしかない。福岡(博多駅)から佐賀まで約40分で移動できるし、小倉~博多はさらに近い。7拠点が相互に1~1.5時間で交流できるので、“1日仕事圏”という言葉で表現している。

### ■学研都市推進の主役は

筑波はすでに述べた経緯からみても、国主導であることが明白である。もともと3か所あった候補地の中から決まったものであり、この都市建設について

### 学研都市づくりと地域特色・時代背景



茨城県や地元市町村がイニシアチブを発揮したりすることはありえなかった。

京阪奈の場合、主役は府県と財界である。民間の宅地開発をリードして学研機能導入を図ったり、国

家的研究機関の誘致などについては、寄附（出資金）を集めたり用地を提供したりということが行われた。これは学研都市の目的が、地域の文化・学術面での浮揚ということにおかれていることを財界・府県が一致して認めていたからである。しかし、それは京阪奈の3府県について言えるだけで、兵庫県は西播磨で放射光施設を誘致することとなり、あるいは大阪府の場合でも千里地域での文化・学術推進ということと並行的に進められることとなった。

これらのことから言えることは、国のプロジェクトとして進められる場合でも、それが地域づくりにとってプラスになるという認識がもたれていない間は、1か所に集中立地させて進めることができるが、ひとたび地域活性化への効果が認識されてしまうと、それぞれのサポート役となる府県などが誘致するところとなり、分散配置になりやすいことを示している。極端な言い方をすると、迷惑施設的にとられると、弱いところに集約して押しつけられるが、地域にメリットがあるとすると、取り合いになり、分散立地になりやすいということである。

卑近な言い方をすると、筑波は国の産業政策、教育政策、科学技術政策を受けたもので、通産省・文部省・科技厅などのタテワリ的な意味あいを持っていたが、京阪奈の場合は、それと府県の関与が大きくなることによって、地域的・自治省的な色合いが加わったとみられる。

九州北部の場合はどうであろうか。この場合はさらに自治省的な傾向が強まり、一層地域づくりのプロジェクトとなるのではなかろうか。現実に九州北部では、県だけでなく拠点市が動き出している。

#### ■都市建設という立場から

もうひとつ、都市づくりという視点で比較してみたい。都市づくりをはじめするには、筑波はもともとのストックがほとんどなく、極めて不利であった。京阪奈丘陵もあまりなかった。それにひきかえ九州北部はすでに大都市が拠点となっているので、都市機能が満たされた状態にあるということである。

まず、比較するには少し無理な面もあるが、一応対象市町村の人口の比較をしてみる。

・筑波（つくば市）（H2年）	143,000人
※土浦市を加えると	270,000
旧5市町村のS55年は	81,200
当時一番人口が多い町（谷田部）	22,200
・京阪奈	
京都府3町（H2年）	89,700
大阪府3市	506,100
奈良県2市	449,000
合計	1,044,800
※人口が多い都市は枚方市	391,000
奈良市	349,400
・九州北部（H2年）	
福岡県内	4,817,000
佐賀県内	467,500
合計	5,284,500

もちろん、筑波のように人口の少ないところをねらって建設されたプロジェクトと、九州北部のように既存大都市を内包しているものと同列に比較することはおかしいかもしれない。しかし、ここでいいたいことは、既存の都市機能の果たす役割の大きさと、そのような高次な機能をもつ都市建設こそが、「学研」という意味を持つのではないかということである。

人口比較は少し無理があるので、近くに連携できる大都市があるかどうかという点について検討してみたい。

・筑波

土浦市 (12km)	127,500人
牛久市 (10km)	60,700
水戸市 (50km)	235,000
東京都 (50km)	11,609,700

・京阪奈

奈良市 (8km)	352,900
生駒市 (9km)	102,500
京都市 (25km)	1,395,000
枚方市 (13km)	392,700
大阪市 (25km)	2,495,300

・九州北部

北九州市 (福岡と50km)	1,015,400
宗像市 (北九州、福岡と25km)	71,300
飯塚市 (北九州と30km、福岡と25km)	83,400
福岡市 (久留米市と30km)	1,214,100
鳥栖市 (福岡市と25km)	56,000
久留米市 (佐賀市と20km)	229,000
佐賀市 (福岡市と40km)	166,900

筑波は25年たっても、中心部に少し都市機能ができただけである。結局、東京に依存させざるを得ないし、筑波新線が建設されれば東京との時間距離が短くなり条件が良くなるだろう。

京阪奈は京都・大阪・奈良という都市と連携せざるを得ない。京阪奈学研都市の中で都市機能を整備することは長期的未来の話とならざるを得ない。

■九州の未来をつくるための地域戦略

いろいろ述べたように、九州北部が目指している

ものは“研究団地”づくりではない。“研究都市”づくりでなければ本来の機能を果たしてないであろう。念のために述べると、今後の国づくり、地域づくりにとって、筑波のように数十年もかけて都市建設をするようなプロジェクトは、不可能ではないかと思う。すでにある都市機能を活用し、レクリエーションや地域文化（九州には祭が多いし、祭の楽しみ方のうまい人間が多い）を享受しながら、住宅・研究・工業の用地を開発し、ハードインフラを整備すれば、楽しい研究都市ができて上がる。

ひとつだけ気になっていることは、九州の人々は“もてなし”はうまいが、研究コーディネートには慣れていないかもしれない。まず、研究コーディネート・支援などの働き手を育成して、各拠点に住宅・研究・工業用地開発をして、研究しやすく、働きやすく、住みよい九州北部学研ゾーンをつくりたいものである。 (糸乗 貞喜)

■ 前号 (7号 1994.1月) 7頁掲載「モノ狂いから脱却する地域産業構造を～九州の先端産業としての地域福祉 2」の資料中、表1 (人口千人当たりの部門別産業従事者数) の数字がちがっていました。お詫びして訂正させていただきます。

人口千人当たりの部門別産業従事者数

単位：人/千人

	九州 (7県)	全 国	東 関 (1都9県)	西 関 (2府4県)
全産業	423.4	485.5	509.8	496.0
①地域づくり先導型	88.4	103.2	119.8	101.0
②地域基幹型	182.8	233.3	242.2	242.7
③地域サポート型	152.2	149.0	147.7	152.3

資料：平成3年事業所統計調査

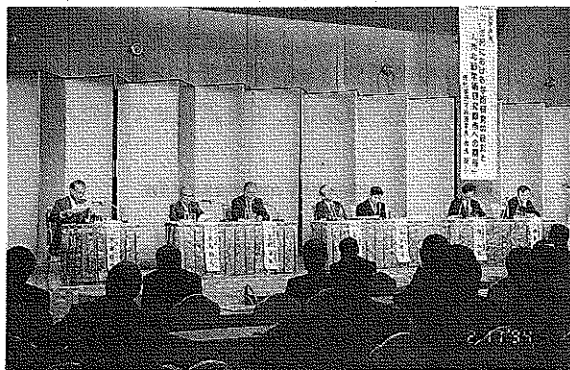
## アジアの明日を考える「アジアス九州」

### 九州北部学術研究都市整備構想

福岡県、佐賀県の両県で進められている「九州北部学術研究都市整備構想—アジアス九州—」は、2県にまたがる7つの拠点ネットワークをつなぎ、地域総力型、競争と連携による豊かな地域づくりをめざすものです。

昭和62年に福岡県での調査が始められ、平成4年には両県による構想推進会議の設立、そして現在、中核的なセンターの設立に向けて、また、地元の産学官のネットワークづくりに向けて、両県の専任スタッフによるプロジェクト推進体制が整いつつあります。

今回は、昨年度末に行われた「九州北部学研都市フォーラム」、「アジアス九州交流会」、「九州北部学研シンポジウムイン久留米」についてご報告します。



熱い討議が交わされたパネルディスカッション

### ■九州北部学研都市フォーラム

2月17日、ホテル日航福岡にて、福岡県の主催により「九州北部学術研究都市フォーラム—21世紀の地域における文化・学術研究 九州の未来を考える—」が開催され、産学官及び一般市民約300名の参加がありました。

基調講演は、理化学研究所理事長（前東京大学総長）の有馬朗人先生、パネルディスカッションには、有馬先生に加えて、高橋良平構想推進会議会長、産業界から菊池功嗣安川電機社長、中富博隆久光製薬（株）社長、国土庁からは関和弘国土庁長官官房審議官（地方振興局担当）、福岡県より樺島義幸企画振興部長、そして、コーディネーターには矢田俊文九州大学経済学部教授の以上7名により、九州北部の未来の展望をテーマに討論が交わされました。

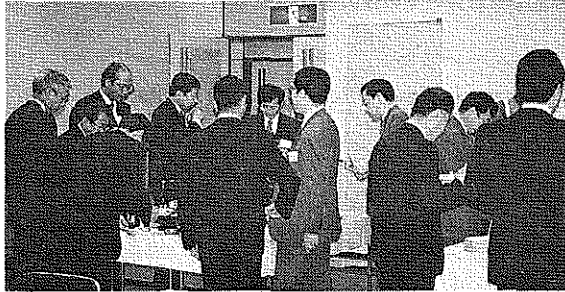
（アジアの学術文化の中心を目指す）

有馬先生の基調講演では、九州の役割として、アジアの国々の留学生の育成、アジアの学術文化の情報発信基地になるためには、まずは高等教育に力を入れ、研究者の育成を推進すること、そのための支援体制を充実させることが必要であると指摘されました。

（知恵を結集して新しい学研都市づくりを）

パネルディスカッションでは、学研都市の実現のために、拠点地域が特色ある学術研究集積を強化し、それをコーディネートする中核的なセンターが必要であることや、アジアの情報発信基地になるため「アジア文化研究所」「アジア環境研究所」、留学生のための「日本語教育研究センター」の設置などの多くの提案がされました。

最後に、矢田教授から、「アジア、人間、環境という総合科学をテーマとして、筑波、関西とは違った



知的刺激に富んだ研究者の交流

ものにするため、各界の参加型により知恵を結集して新しい学術研究都市づくりを推進しなければならない」という総括がありました。

#### ■アジアス九州交流会

(知的刺激に富んだ産学官交流の場)

この交流会は、知的刺激を相互に呼び起こすために幅広い分野の人達に参加してもらい、気軽に緊張感あふれた場をつくり、いろいろな人の知的ネットワークをつくらうとするものです。

(第1回交流会には約40名が参加)

第1回交流会は、3月14日、高橋良平推進会議会長を講師に招き、昨年10月に推進会議主催で実施した欧州学術研究都市視察を中心に、アジアス九州構想について、先生の思いを語っていただきました。

福岡、佐賀を中心に活躍されている企業や研究機関の研究者、拠点地域の行政の方、約40名が参加され、高橋先生の話の後、軽食と飲み物で歓談が行われました。

#### ■九州北部学研シンポジウムイン久留米

アジアス九州プロジェクトの拠点地域の一つであ



久留米で開かれた学研シンポ

る久留米市において、久留米学術研究都市づくり推進協議会主催の「九州北部学研シンポジウムイン久留米ー九州・アジアの学術研究拠点をめざして」が3月29日に行われ、約250人の参加がありました。

矢田俊文九州大学経済学部教授の基調講演、「地域の頭脳集積は可能か」では、今の工業社会から、研究開発などの頭脳部分の比重が高まり、知識社会あるいはもてなしが重視される社会では、地域での頭脳集積の必要であることについて述べられました。

パネルディスカッションは、パネラーに福岡教三久留米大学学長、長友泰明九州・山口経済連合会常務理事、廣末英晴通産省九州工業技術院九州工業技術研究所材料科学科学部部長、藤本英夫福岡県企画振興部次長、総合司会を山下國誥鹿児島大学法文学部助教授により、会場の参加者からの質問を交えて活発な議論が行われました。パネラーからは、人文、社会科学まで網羅した学園都市づくりが必要、基礎研究分野の振興に期待、中核センターの必要性などの意見が述べられ、会場からは、地元の技術振興とどう結びつくのが、といった質問が出されていました。(歌丸 星子)

## 広い住宅安く借りたい だけど家主も得したい

### ～動き始める特定優良賃貸住宅

ファミリー向けの新しいタイプの公的賃貸住宅として、「特定優良賃貸住宅」がスタートする（平成5年5月法律制定）。これは現在の公営住宅には入居できないが、民間の賃貸住宅の家賃では負担が大きい、といったいわゆる中堅層を入居対象とし、しかも一定以上の戸当たり面積を持つ優良な住宅を供給しようという制度で、様々な補助等が事業主及び入居者に対して行われる。

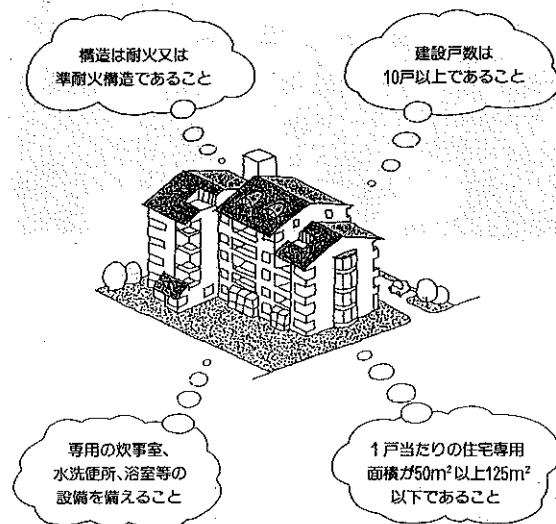
ここでその概要とメリット、考えられる問題点等を述べて、特定優良賃貸住宅（以下特優賃）制度の紹介としたい。

#### 〈民間賃貸住宅は「せまい」か「高い」〉

現在の賃貸住宅の状況は、数的には満たされているものの、世帯の大きさにあった規模の住宅として考えると、ファミリータイプ（3DK以上等）の住宅はかなり不足している。例えば昭和63年住宅統計調査によれば、民間賃貸住宅のうち戸当たり床面積50㎡（2LDK、3DK程度）以上のものは約25%、70㎡（3LDK程度）以上のものでは約10%とかなり少ない割合になっている。

広い賃貸住宅の供給が少ない背景として、事業者側の採算性の問題がある。特に都心において、バブル期に地価の高騰があったことなどが原因となり、現在市街地で賃貸住宅を経営しようとするれば、戸数を増やし家賃収入をあげなければ採算は合わない。戸数を増やすためには単身用等の面積の狭いものを多く詰め込むことになる。広い住宅をつくれればそれに比例して家賃は高くしたいが、単身用と同じ面積当

#### 特定優良賃貸住宅の建設基準



たり単価で家賃を設定すると相当な高額になり、今度は入居者が集まらなくなるため、ある程度家賃は抑えざるを得ない。ある地方都市の例でいくとワンルームマンションなら坪当たり5,500円まではとれるが、ファミリータイプでは4,000円位しかとれないということであった。そのため広い住宅は市街地では高くなり、入居する人としては狭い所で我慢するか、高い家賃を払うか、あるいは郊外へ引っ込むか、という選択をする事になる。

ちなみに現在の公的賃貸住宅（県営・市町村営住宅）は、例えば福岡市内で戸当たり床面積が60㎡以上で月4万円以下等の広くて安い住宅があるが、入居者の収入制限があり、4人世帯であれば年収490万円以下の世帯しか入居資格がなく、さらに抽選で当たった人のみが入居できることになっている。



### 〈民間借り上げの公共賃貸住宅〉

これらの状況を改善するために制定された特優賃の制度は、簡単にいえば、公営階層以上の収入がある世帯にも広い住宅を安く供給しようというものである。供給方法は次の2通りある。

- ①民間の土地所有者等が住宅を建設し、それを地方公共団体や地方住宅供給公社、農協等あるいは民間事業者が借り上げ、又は管理する方法。
  - ②地方公共団体等が直接供給する方法。
- 直接供給については特に問題はないので、実際の柱となる借り上げ、管理受託について述べることにする。

特優賃住宅として借り上げや管理を行うためには県の認定基準を決めることとされおり、国では概ね次のように基準の巾を定めている。

- ・構造は耐火又は準耐火であること
- ・戸数は10戸以上
- ・戸当り専用面積が50～125㎡
- ・専用の炊事室、水洗便所、浴室等を備える

これを基本として各都道府県で地域の実情に合っ

た認定基準をつくって実際の認定を行うことになる(戸当り専用面積を65㎡以上にするなど)。つまりこの基準を満たしているものを「優良な賃貸住宅」とするということである。

### 〈共同施設整備費の2/3に補助〉

認定を受けた賃貸住宅にはいくつかの補助、措置等がある。

- ・共同施設等整備費の2/3に補助がつく。  
共同施設とは、廊下・階段・管理室・空地・駐車場等である。(例えば住宅の建設費が1500万円とし、共同施設等整備費がその20%の場合には戸当り200万円の補助が受けられることになる)
- ・住宅金融公庫融資が建設費の80%まで受けられる。さらに住宅金融公庫の基準に該当すれば「ファミリー賃貸住宅融資」などより有利な融資を受けることが可能となる。
- ・場合によっては地方公共団体より当初5年間2%の利子補給を受けることもできる。

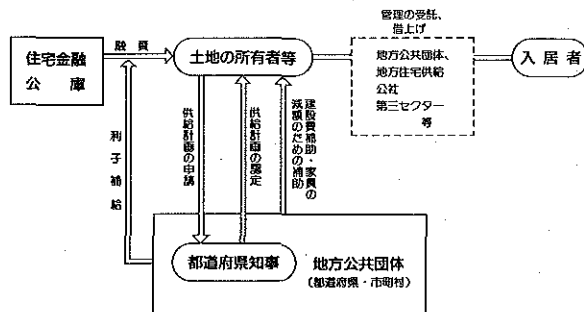
これらの措置により、①戸当り面積の大きい住宅でも資金計画が十分にたてられるようになる、②自己資金の少ない人でも事業主となれる可能性が出てくる、③共同施設の補助によりグレードの高い住宅が提供できる、④入居者の確保が容易になる、等のことが考えられる。

結果として、ファミリータイプの安くて優良な賃貸住宅の供給の増加が期待されるのである。

### 〈入居者にも直接家賃補助〉

入居者に対しては、公営住宅と同様入居資格がある。国の基準では収入階級25～50% (4人世帯の場合、年収470～650万円) のいわゆる中堅層世帯が対象となる。従来の公営住宅の入居資格と一部重なってさらにその上の階層を入居対象者とする訳である。

### 特定優良賃貸住宅制度のしくみ



入居資格の上限は都道府県知事の認定により、収入階級の80%（4人世帯の場合年収約1000万円）まで引き上げることができ、そうなれば借家人居者層のかなりの部分をカバーすることになる。つまり借家住まいの人の大部分は、公営住宅か特優賃かどちらかの入居資格を持つことになる。（ただし単身者は原則として不可）

気になる家賃の方は、世帯収入により基準額が設けられており、それを基に入居者負担額が決められる。事業主との契約は市場家賃で行われるが、市場家賃と入居者負担額の差額分は国と地方公共団体から補助がなされるのである。例えば山口県の場合、65㎡の住宅に年収500万円の人が入居すると入居者負担額は52,200円、もし契約家賃が70,000円なら17,800円の補助となる。事業主は市場家賃と同額の家賃収入を得、入居者は市場家賃より安く入居できるのである。ただし入居者負担額は毎年5%ずつ上昇し、市場家賃にすりついてからは市場家賃を支払うこととなる。

#### 〈残された問題点〉

事業主にも入居者にもメリットのある特優賃制度だが、残された問題点もある。

ひとつは管理上の問題。借り上げや管理委託により地方住宅供給公社や農協、民間事業者等が管理を行うことになるが、管理のサービスが均質のものとなるかどうか。24時間体制の管理や、迅速な対応、細やかなサービスという点では民間の方が優れていると考えられる。

次に手続き上の問題である。特優賃の認定を受けるまでには認定申請等の様々な手続きが必要であり、同時に時間もかかり、事業開始にも影響が出る。家賃上昇についてもいくつか問題がある。まず年5%上

昇の幅は大きく、市場家賃が元々低い地方都市では数年で市場家賃に追いつき、家賃補助があまり意味をなさない。また場合によっては市場家賃の方が入居者負担額を下回っていることもあり、そういうケースでは最初から家賃補助はない。

家賃補助の受取りの時期が決まっており、この間家主の収入が減少するなどの問題もある。

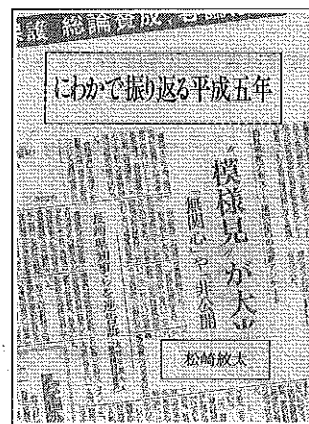
その他、当初の安い入居者負担額が周辺の賃貸住宅市場にも影響して家賃が下がり、一般のアパート経営が成立しにくくなる可能性もある。

しかし様々な課題はあるものの、現在不足しているファミリー向け賃貸住宅の供給を促す制度として、特優賃を事業主、入居者双方が活用していくことを期待したい。（伊藤 聡）

こんな本をいただきました

「にわかで振り返る  
平成五年」

昨年のよかネットパーティを、「博多にわか」で盛り上げてくださった、松崎紋太氏の「にわか集」です。



## 海を渡った「うらしま太郎」

服部メディカル研究所 服部 万里子

「あなたは老人ですか？」と聞かれると、「とんでもない」、「失礼なことを言わないで下さい…」ときっとあなたは応えるでしょう。

老人とは誰か？の正解は難しいものです。ある詩人は希望を失った時…と言いましたが、WHOではその国の人口の中で65歳以上の率を“高齢化率”として、それが7%を越える社会を高齢にむかっている社会（高齢化社会）としました。

日本の老人福祉法や、この三月を目標に各市町村で進められている老人保健福祉計画でも、“65歳以上”がメルクマールになっています。

ともあれ、日本はこれから十余年後には世界で一番高齢化が進んだ国となります。

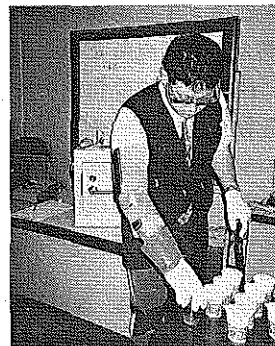
今日でも国民の半分は40歳になっています。このような社会では町づくりや、生活用品、食事からファッション、住宅や地域社会のコミュニケーション等に求められる内容が変わってきます。

化粧品業界はヤングターゲットから、カラーリンスをはじめ、中高年の乾燥肌のための保湿性の高いクリーム開発に力を入れ、住宅は二世帯住宅やバリアフリーが目玉となり、入れ歯や老人ホーム、墓石がテレビのコマーシャルに登場しています。

〈高齢者の疑似体験セット「うらしま太郎」〉

年をとった時に自分の身体がどのように変わってくるのか、老人は何故躓きやすいのか、日常生活で何が不便になり、どのようなものが使い易くなるのか…。

このような老化を疑似的に体験するのが「うらしま太郎」です。（あ～っという間におじいさん…の昔



ばなしから命名しました。)

この体験セットは日本の老人の生理的な老化（加齢に伴うからだの変化）を体験するものです。

白内障で物が見えにくく、色が黄変するメガネ、手が握りづらく関節が曲がりにくくなることを再現するサポーター類、足が上がりづらく、躓き易くなることを再現するサポーター、身体が前屈みになり動くことが億劫になるような重りの装置など12点を身につけます。

これを装着すると、ドアが開けづらい、段差に不安を感じる、新聞が読みにくくなる等の日常生活の不便さの体験から、老人の頑固になりがちな気持ちや心理についても感じるきっかけができます。

〈1,200人を越える人がシニア体験〉

このシニア・シミュレーターは、(社)長寿社会文化協会の委託を受け、服部メディカル研究所が開発しました。

すでにアメリカでは15年程前からミシガン大学の建築の分野で、学生が高齢者を体験できるグッズを身につけて住宅の中を歩き、どこで躓き、何に不安を感じるかについて体験をするプログラムが開発されていました。

このような海外の動向の調査から着手し、東京都老人総合研究所とのミーティングで日本人の加齢に伴う生理的変化をデータ分析しました。そこから各種サポーターや、機能変化を再現する方法、材料の検討を行い完成したのが「うらしま太郎」です。

合わせて手指機能の変化を客観的に評価するための手指機能検査機器も完成しました。

1994年2月28日 西日本新聞（朝刊）から

「お年寄りの感覚を理解しないで、高齢化社会の福祉や商売はできない。行政や企業もここ一二年で取り組む方が変わって来た」と感じている。

視力を狭める特殊眼鏡、手足を動きにくくするサポーターは十二点を身に付け、老人の感覚を体験させるセット「うらしま太郎」を開発した。

昨春秋に始めた体験セミナーの受講者は、小学生から七十代のお年寄りまで、全国で千人以上の「浦島太郎」が参加した。住宅設備「シルバー商品」の開発担当者や多岐以上に多かった。

「日本にはカナダの老人体験製品が一部紹介されていたが、日本人の体格に合わない。一か手作りするのでも検査が試作品で埋まってしまう」

ひと

高齢化社会の福祉のため老人疑似体験セットを開発した

はつりまこ 服部万里子さん

「夫の介護体験が医療の道に進むことを決意させた」。つらい体験を振り返る。

大阪で病院専員を務めながら、夜間に看護学校に通い、看護婦の資



質だった。完成は半年かかった。

早稲田大学卒業後、都内の大手時計メーカーに勤めた。二十八歳のとき、学生結婚した夫を事故で失

格も。

その後、老人ホームの運営、中高年向け住宅の開発、病院経営コンサルタントなど「数えて見れば医療関係の仕事だけで五十以上、も手掛けた。一九八九年に東京・渋谷に中高年の福祉や医療情報研究センターとした服部エイカル研究所設立。

「交通機関の調査で、高齢者にとっていかに危険な場所が多いかを知った。これも開発のきっかけ。これからは学校教育にこうした疑似体験を取り入れてほしい」

米田は毎年、高齢者の技能や経験を生かした社会参加の報告や、情報交換会「シニア工房」が開かれている。今の目標は、日本でも同じような交流の場を、ミニニニアパールの総結集のイベントにした

ホームヘルパーや看護婦の高齢者介助に携わる職員の研修から始まり、保健所や社会福祉協議会での研修・住宅の賄い勝手の体験・スーパーマーケットの買い易さや銀行の金銭支払いの不便さを、駅や地下鉄、バスの利用場面での問題チェック、そして高齢者向け風呂やトイレの商品開発等に活用し、すでに2,000名が体験しました。

先日オーストラリアの国営テレビが取材に来て、現地のニュースで放映したところ大きな反響があり、そのために「うらしま太郎」はオーストラリアにも渡りました。現地で疑似体験を行う特別番組がくまれることになりました。

ますます高齢化が進む今日、使う人のニーズに沿った商品やサービス開発のために、また老人とのコミュニケーションづくりのために、老人を理解するために大いに活躍している太郎さんです。皆さんも一度体験して下さい。

6月18～19日（土、日）京都府の見本市会館で、「SKYふれあいフェスティバル」が開催されます。この2日間は3万人が集まるイベントですが、ここで「うらしま太郎」を誰でも体験できるブースを設けます。お問合せはSKYセンターへどうぞ。

地域ゼミ再開

「お年寄りだって天神が楽しい」

3月10日、久しぶりに開いた地域ゼミに、九州産業大学工学部建築学科の上和田教授をお招きし「都市高齢者の余暇活動を考える」というテーマでお話ししていただきました。

教授のグループが行った調査は、福岡市天神地下

行動人別	行動圏域	行動内容					行動パターン類型名
		出社	移動	遊覧	買物	会話	
単 独	狭 域	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ひなたぼっこ型
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ストリートウォッチャー型
	中 域	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	タウンウォッチング型
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	教養娯楽・情報享受型
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	対人接触欲求型
広 域	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	広 域 行 動 型	
複 数	狭 域	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	会 話 型
	中 域	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	シ ョ ッ ピ ン グ 型

※行動内容  
 出社(通勤)行動: 通勤、通学、定時の個人用移動  
 移動(任意)行動: 移動、散歩、所定ウォークラリー等  
 遊覧(任意)行動: 特定の目的地や施設から徒歩した  
 買物(任意)行動: 購買会館、店舗、屋外・屋内買物施設の利用  
 会話(任意)行動: 買い物(ウォークラリー等)含む  
 会話(任意)行動: 会話、購入への話しかき

※行動圏域  
 ●: 主たる行動  
 △: 副次的行動

### 行動パターン類型

街に集まる高齢者に対する追跡やアンケートから、その行動パターンや意識を分析するというユニークなものでした。話の内容をかいつまんで紹介すると、

- ・地下街には良くみると高齢者が結構いる。普段は周囲にとけ込んでいて気付かない。
- ・地域社会組織の押しつけがましさを、老人くささを嫌う人が天神に集まっている。
- ・休憩や仮眠中心の「ひなたぼっこ型」や、あちこち巡回する「タウンウォッチング型」などタイプは様々。
- ・朝10時に来て夕方5時に帰る、サラリーマン癖の抜けない人もいる。
- ・高齢者も岩田屋、イムズ、ソラリア等が好き。
- ・男性の高齢者が女性の高齢者に声をかけることもあるらしい。
- ・グループができると、みんなで旅行にいったりもする。

など、笑えてうなずける話が盛りだくさんでした。「地域ゼミ」は、昭和59年12月より「街づくり」や「人」に興味のある方とともに、街づくりの勉強と異業種間の交流を目的として始めたもので、平成4年9月までの間に27回の開催を行っていました。その後忙しさにかまけて約1年半の間さぼっていましたが、今年の年始の挨拶廻りをしましたところ、何人かの方に「地域ゼミ」再開の要望されました。やはり、街づくりの情報・交流の場、人と人の交流の場として、このような会を続けていくことの大切さを感じ、再開させていただくことになりました。

今後は、1~2月に1回のペースで実施していきたいと考えております。興味のある方は参加費1,000円を持参の上、会場に来ていただければ結構です。参加ご希望の方は「よかネット」末尾の弊社宛までFAXまたはTELにて、事務局担当の富重または歌丸までお知らせ下さい。（伊藤 聡、山田 龍雄）

### あなたもいかが 巨神タイタン

北九州市八幡東区にあるスペースワールドに3月5日巨大ジェットコースターが登場した。その名も“タイタン（ギリシャ神話の巨神）”。

全長1,530m、最高高度60m、最大傾斜角度60度、最高走行速度115/h、最大遠心力3.7G、所要時間3分間と想像もできない（実際乗ってみないと解らない）物体である。

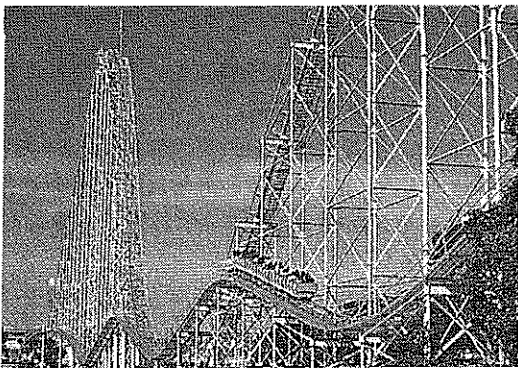
大分県の城島後楽園にもジュピターという木製コースターがあるが、それと比べると見た目が安っぽく、危険そうである。がっちりしていないのである。

「ピッ、ピッ、ピッ、ピーン」Go!である。最初からF1というヘアピンカーブに差しかかる。昔のコースターが一番高い所まで登るのが遅かったが、このタイタンは速い速い。「あらっ」という間に最高峰60mまで登ってしまう。そして、「きたきたきたあ」一番の緊張感と共に60度の傾斜を一気に落っこちた。(一緒に乗った人は下のレールが内側にへこんで見えたと言っていた) スキーのジャンプの傾斜が60度でビルの屋上から落ちる気分だということなので、正にこの気分。

落ちたと思ったら、次の45度、45mからの落下が待っている。私が一番恐かったのは、斜め60度くらいのブーメラン回転。実際は30度くらいしかないのだろうけど、本当にそのまま横倒しで落ちるのではないかと気が遠くなるほど恐かった。(弊社のY氏なら気絶しているかもしれない) まだまだこれで終わりではない。5連続アップダウンが待っている。

しかし、これは難なくクリア。というわけで、到着である。

乗って見ないと体感できない非現実的な体験ができるので私は結構気に入っている。が、もっと想像



できないのがフリーホールだと思う。ぜひこちらの方も体験してみたいものです。

(神野 みつえ)

## 食 場 日 誌

- ・ 2月3日(木) 長崎市で皿うどん屋さんを求めて白昼徘徊す。何やら魅惑的な匂いに吸い寄せられて入った店は大黒市場界隈の大衆定食屋。異常に固い麺、異常に多い量に圧倒されつつ、ゴマ油、大蒜、生姜、葱油の利いた目標物を10分で腹に治める。お舌代500円也。事務所へのおみやげは市場の乾物屋で買ったアゴの干物。(お)
- ・ 2月18日(金) 旧知の「ため池の会」の人たちと灘の酒蔵見学。(い)
- ・ 2月23日(水) 福井へ行って「へしこ」と「味噌昆布、渡島」を買って帰った。前者は鯖の糠漬で後者は昆布を薄くはがした上で味をつけたもの。福井(敦賀)は北前船の昆布ルートの拠点で、昆布の加工品が最も多いところといわれている。問題は「へしこ」で、これを日頃いっている店に持って行って焼いてもらって食べた。ところが「もっと送ってもらえないか」といわれて困った。福井にルートがあるわけでもなく、結局豊岡の小島さんをわずらわして送っていただいた。食べ物のおこす波紋もなかなか大きい。(い)
- ・ 3月3日(木) 佐賀市で駅裏の料理屋・申子へ。クツゾコ、アラカブなど豊饒の海・有明海でとれた新鮮な魚介類の肴がうれしい。(お)
- ・ 3月7日(金) 築城町の方からいただいた自家製の

イチゴ「とよのか」を10パックほど事務所でいただく。いつもは散らかってタバコの煙が漂う事務所が一瞬だけ甘い香りに包まれた。(お)

3月29日(火) 北海道から送っていただいた紅鮭石狩漬をザクザク切って事務所で食す。白菜のほのかな甘みと鮭の柔らかな舌触りに口が喜んでいるのがわかる。白菜は「はがす」というより「脱がす」と言った方が良い……と書いた作家がいるが、まさに色っぽくも濃厚な「大人の女」というような表現がぴったりの味である。(お)

3月30日(水) 丸ビルの上の精養軒でビーフピラフ。ビーフはコマギレで入っているのではなくビーフステーキが炒めご飯の上ののって出て来る。少々高いが十分リーズナブル。もちろん奢っていただいたのだが。ありがとうございました。(い)

### あぐらをかいてビール片手に芝居を観る

嘉穂劇場・座長大会

#### ■ 棧敷席で芝居を観る

大型連休前の週末の4月23日(土)、飯塚市の嘉穂劇場へ「座長大会」なるものを観に、所員とお客様の計20数名で行きました。

嘉穂劇場は大正11年に「中座」として開場。昭和6年に「嘉穂劇場」として出発しています。昭和11年には遠賀川沿いに大小33という、一地方としては破格の数の劇場が並んでいましたが、現存するのはここだけです。現在嘉穂劇場は木造で棧敷席をもつ、全国でも珍しい劇場として知られています。

棧敷の魅力は何と言っても酒を飲みながら、弁当を食べながら歌や芝居が観られることでしょう。我々



ひっそりたたずむ嘉穂劇場

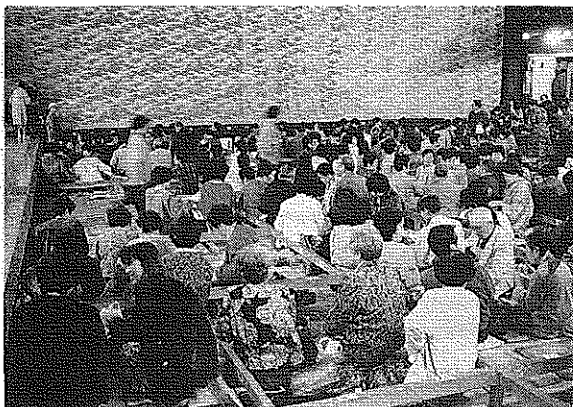
はビールは手に入ったものの、弁当は注文の数が多かったためか後回しにされ、芝居が終わるまで待たされましたが、「弁当持ち込み禁止」の張り紙にもかかわらず周りの人たちは結構手弁当で来てました。

注意を守らないといえば、「上演中は写真撮影禁止」の張り紙もありましたが、結構フラッシュがたかかれ、おかげでこちらもそれにまぎれて写真を撮ることができました。

#### ■ 劇場の主導権は「おばちゃん」にあり

会場には年輩の女性(おばちゃん、お婆ちゃん)のお客さんが多く、舞台の合間など話に興じて大笑いする光景が多くみられました。そのおばちゃんに関して、驚いた事件がありました。トイレに行ったときのこと、ドヤドヤと男性便所になだれ込んできた例の女性陣、“大”の個室をあっという間に占領しました。それにあふれた一人のお婆さんは着物のスソをまくって、男子用小便器で「立ち〇〇」を取行。「見らんでねー」とお婆さんは言っていたが。

しかし良く考えてみると、客のほとんどは女性で、



芝居はやっぱり桝敷に限る

トイレの数が男女同じということの方がアンバランスだとも言えます。男性の客がほとんどないときなど、殿方用でも奥方用として、おばちゃんたちは柔軟に（強行に？）対応しているのでしょう。

#### ■アドリブもはいるお芝居

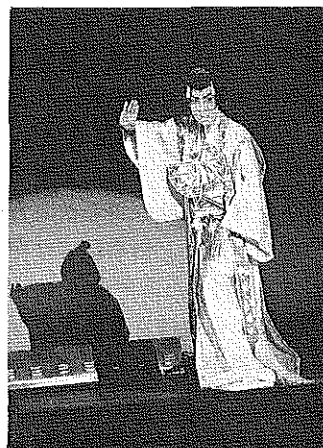
舞台は最初に歌と踊りがあり、その後は座長のオールキャストによる任侠もののお芝居。ストーリー自体はいたってまじめなのだが、時々「久しぶりだな」「いやあ今日は飛行機が朝6時に着いて、3時間しか寝てないんですよ」だの、セットの扉のすべりが悪いと「兄貴んちは建てつけ悪いな」だの、結構アドリブも入って笑わせてくれました。

#### ■1万円札10枚のペンダント

お芝居の後、休憩を挟んで再び歌と踊り。ここは座長さんの稼ごころです。客席からときどきおばちゃんが舞台の下までいき、役者を呼んで帯や胸元に御祝儀としてお札を挟み込んでいきます。中には1万円札10枚を扇型に貼り合わせたペンダント(?)を作ってきている人もいました。これをみると「役

者はやめられんやろ  
うなあ」と単純に思  
いました。しかし噂  
ではもっと派手にお  
札が飛び交うように  
聞いていたので、少  
し物足りない気もし  
ました。いや、本当  
に物足りなかったの  
は座長さんの方かも  
知れませんが。

(伊藤 聡)

役者はやめられない?  
1万円札のペンダント

### フレッシュマン紹介



金川さん



伊藤さん

4月から入社しました。

よろしくお願ひ致します。

●金川 薫(22歳) 福岡県大川市出身



西南学院大学商学部商学科卒

・賑わいのある町づくりが目標。料理の腕に自信あり。最近お腹が気になり始めた22歳。

●伊藤 加奈 (22歳) 福岡県福岡市出身

西南学院大学文学部児童教育学科卒

・大学で学んだことは全て役立つと信じて仕事に励みます。私の席からの風景が気に入っている。

### ■子どもの夜遊び

仮出所の囚人のような気分で空港を出ると、昨日まで雨続きだったというのが信じられないほど、空は日本晴れならぬ、西海岸晴れであった。こんな日のロサンゼルスは夜景が最高だという。

ひととおりのぼりさんの観光を済ませ、ホテルでひと休みすると、約束どおり現地に住む友人が迎えに来た。既に時刻は10時をまわっていた。

フリーウェイをぬけるとそこは中国だった。といった感じの、モンレイパークという中国人の町で食事となった。

日本人はこないらしい、メニューも中国語で店員の方もあまり英語が達者ではない、食べきれないほどの料理を頼んでしまい後悔したが、一人7ドルと驚くほど安く、味もボリュームも最高であった。

次に台湾カキ氷、なるものを試しに行ったのだが、1リットルは入りそうなカップに、杏仁豆腐、ライチ、あずき等々10数種の具を氷の下に好きなだけ詰め込む、味も日本人が好みそうな味で、これまたたったの2ドル。

走りすぎたのか、帰りにガソリンが切れ、危険を承知で0時過ぎのガソリンスタンドに入った。薄暗く、犯罪のにおいがする。案の定2人の黒人とメキシコ人が寄ってきて、親切そうにガソリンを入れてくれよ

うとする、するともう一人が僕に金をよこせとせがんできた必死で無視し、車を動かし始めるとふたりは、「ワスレモノー (英語で)」と言いながら走ってきた。これも彼らの手なのだ。

その日は、ビールに縁がなかったので、またまた危ない深夜のコンビニへ向かった。おっかなびっくり店にはいると、警官が3、4人コーヒーを飲んでいのではないか、地獄に仏とはこのことだと安心して買い物を済ませ、その夜は酔いと疲れからかぐっすり眠った。  
(金川 薫)

### ■冬の京都で…

ゼミ旅行と称して京都・大阪・神戸の三都物語へ出かけました。2月に入ってまもなくのことでした。なかでも、3日目の京都が楽しみでした。京都はこの冬一番の冷え込みになるとの予報でした。寒いのが苦手な私ですが、このときばかりは妙にうれしく思われました。町のあちこちに残る社寺、仏閣、史跡から漂う京都の伝統と文化の香りが、冬の静けさの中だと、より一層感じられる気がしたからです。

京都は794年平安京に遷都以来、常に歴史の舞台となってきました。1200年の間には幾度かの破壊と建設が繰り返され、複数の歴史が重層的に残っています。その代表ともいえる金閣寺に、まずは足を運んでみることにしました。

総門をくぐり、参道をすすんでいくと、鏡湖池が見えてきました。その澄んだ色に気をとられていると、私の目の前にはすでに金閣が現れていました。突然現れたという驚きと、今までに見たことがないという驚きで一気に体の力が抜け、呆然と立ちすくんでしまいました。金閣を中心とした庭園は、極楽浄土をこの世に現したといわれていますが、まさにそ

れを見ているようで、流れる空気さえ何かが違うようでした。

目を瞑ると浮かんでくるのは今でも金閣寺です。ただひとつ、金閣寺にばかり心を奪われていて、うまい！といえるものを食べることを忘れてしまっていたのです（神戸ではステーキをしっかりと食べました…）。

忙しい合間をぬって、新人らしく“安・近・短”の旅行に出かけられたらと思っています。

（伊藤 加奈）

## 近況報告

### ■断食その後

断食の報告を読んでいただいた方から、電話や手紙などをいただいた。「もう元の体重にもどったでしょう」という問いかけが多かったが、まだ今でも2キロ程度は減ったままである。ズボンのウエストがずいぶんゆっくりしてしまって少し困るぐらいである。体重がもとにもどらない理由は、少し胃腸の調子が悪いと思うとすぐに1〜2食ぐらいぬいてしまうからであろう。結局断食の効果というのは、自分の身体を見つめやすくなったことではないかと思っている。

### ■小論文を書かせていただいた

「民間の長所を生かして地域の小さなネットワークポイントに」（季刊「地方自治の窓」の“特集・地方シンクタンクの活用と自治体のあり方”）というテーマで、私どもの事務所が、小さくて知恵もなくとも、地域の小さなネットワークポイントとして、知的インフラの一助になりたいという考えを書いた。

### ■日誌断片

・3月3日 地方シンクタンク協議会の研究発表会で、上記の内容の一部を報告した。

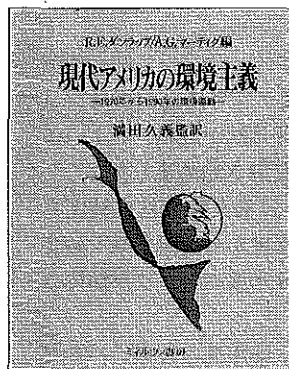
・3月11日 京都 山科の再開発事業の仮設店舗訪問。事業にはほとんど関与していないが、地元商業の方々に知った人もおられ、気になっていたので顔を出した。幸いに仮設店舗には思ったより人が多く入っており、商売も上々のように見られた。

・3月13日 日本ホリスティック医学協会福岡フォーラムで「ハリを通して垣間みる未知の世界・東洋医学の不思議」を聞いた。

・3月19日 尼崎駅前（潮江）再開発第一期竣工式。これは市の住環モデル事業と住都公団施行の再開発事業の合併施行で、その再開発の第一期の竣工であった。近松門左衛門ゆかりの地ということで、人形浄瑠璃の三番叟が出てなかなかの圧巻であった。わたしはこの事業については、当初地元の人々と市の担当の方々との間に立ってコーディネート係をさせていただいた。市の方にはずい分うらまれたが、久しぶりに会って「あなた方のおかげですよ」とねぎらいの言葉をかけていただいた。こうなると、いやな思い出も、すべてプラスイメージの引き立て役になって、妙な思い出を強めることになる。

・4月6日 某所で新入社員研修で話をせよといわれてしゃべったが、これは惨憺たる結果。小生のオハコの「メシとオカズ」の話をしたが、何分「オカズがメシで、メシがオカズ」の世代の諸君には通じなかったようだ。

（糸乗 貞喜）



「現代アメリカの  
環境主義」  
～1970年から1990年  
の環境運動～  
R.E.ダンラップ/  
A.G.マーティン編  
満田久義監訳  
(ミネルヴァ書房)

アメリカにおける環境主義思想の萌芽は、古くは19世紀末に遡り、2つの大戦や経済活動、政治思想など様々な社会環境に影響されながら、今日に至るまでアメリカの社会運動の大きな風潮として息づいている。

本書では、1990年に20周年を迎えた「アース・デイ」(「地球の日」)を、環境主義運動の一つの節目として捉え、現在も活動を行っている環境主義の思想を持つ団体について、その成立背景や活動の経緯、活動が広く支持されるに至った戦術、それらを取りまく社会環境の変遷などを巡って様々な「観察」を行っている。

アメリカという「人種の坩堝」とも比喻されるほどの多様性を持つ国での環境主義運動は、単一民族国家である日本のそれとは違い、抑圧された社会層の国家に対する欲求不満のはけ口でもあり得る。また、社会的な発言権を得るための手段としての環境主義でもあり得る。もちろん純粋に環境保全と環境保護を支持する主流派の方が圧倒的に多いのだが。このため、捕鯨船の襲撃や魚網を切るなどの日本人の目には過激と思えるような活動を行う団体や、自らの生活の安全の要求からスタートする消費者団体運

動のような「草の根運動」などが広く支持されるのである。

このように多様性に富んだ環境主義の思想・活動は「消滅せずには存続し続けているが、環境破壊を阻止することに成功したかについては、歴史がそれを評価する」という本書の結論とも言えるフレーズに対応しており、アメリカにおける環境主義思想・運動が未だに臨界点に達してはいないということに行き着くのである。

本書は環境主義を社会運動の一つとして捉えており、環境主義の思想や活動の変遷に対して、非常に客観的に観察を加えている。そのため、環境主義のややもすれば「感情的」になりがちな議論からは一歩引いて身を置いているような印象が強い。

私自身は日本で代表的な環境保護団体であるNACS-1(日本自然保護協会)に加入しており、そこから毎月会報を送ってもらっているが、日本の環境主義の思想は、アメリカのそれが専門的なスタッフによる実証的、客観的なデータを手に「主観的」に行われているのに比べ、どちらかというと情緒的、雰囲気的に煽動されて「客観的」なものになっているような気がする。歴史の長いアメリカでの活動がまだ完全な成功を治めていないので、どちらが優れているとは言えないが、互いに特徴として持つ「客観性」「主観性」を克己できれば、今後、その活動において非常に大きな成功を見る可能性が高いと思われる。

(尾崎 正利)

## お知らせ

### “よかネットパーティ”のご案内

- 【日 時】 平成6年6月3日(金)  
17:00～
- 【場 所】 ㈱九州地域計画研究所  
7F 会議室
- 【お楽しみ】 博多にわか うまいもの  
うまい酒

昨年に引き続き、今年もよかネットパーティを開きます。皆様のご協力で、昨年は約70品の特産品、酒を取り寄せ、楽しんでいただくことが出来ました。今年もおいしいもの、珍しいものを集めようと検討中です。皆様からの情報もおまちしていますのでご協力をお願いします。

大好評でした“博多にわか”を今年もお願いしています。今回は所員も挑戦する予定ですのでご期待下さい。

参加ご希望のかたは、電話かFAXでお願いします。FAXで申し込まれる場合は、申込用紙を同封していますのでご利用ください。

皆様と一緒に楽しいひとときを過ごせることを所員一同楽しみにしています。

### 〔編集後記〕

昭和62年から始まったアジアス九州プロジェクト(九北学研)が、専任体制が整い、いよいよ具体的な姿づくりに向けて動き始めました。

民間活力を活用した特定優良賃貸住宅制度も試行錯誤しながらも、今年度から全国各県で始まり、中堅収入階級層の居住水準のアップが期待されています。

新年度になりましたが、昨年度の仕事にバタバタしながら、今年も「よかネットパーティ」を行います。新しい顔も登場しますので是非お越し下さい。

最後に「にわかで振り返る平成5年」から一題、「じいちゃん。近頃天神やらばうろつきよんげなが、何ぼしよるとな?」「そらあ情報やら、知る場あ(シルバー)求めよる。」

(べ)

よかネット NO.9 1994.5

(編集・発行)

㈱九州地域計画研究所

〒810 福岡市中央区天神1-15-1 日之出ビル6F  
TEL 092-731-7671 FAX 092-731-7673

(ネットワーク会社)

㈱地域計画建築研究所

本社 京都事務所

TEL 075-221-5132

大阪事務所

TEL 06-942-5732

名古屋事務所

TEL 052-962-1224

東京事務所

TEL 03-3226-9130